

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900326		
法人名	医療法人 村山内科		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1		
自己評価作成日	令和3年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に併設している為、24時間安心して生活ができ、医療・介護・福祉が提供出来る事で、終末期においても最期まで、その人らしく意思を尊重して看取りができます。また、中心街の中にある為、地域との交流も図りやすいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、“尊厳ある暮らしを支援します”と言う理念を掲げ、利用者一人ひとりのこれまでの生活や大切にしていることを把握し、希望にそった支援に取り組んでいる。母体が医療法人であり、担当者会議などの際には、医師や看護師、作業療法士、歯科衛生士など、多職種の関係者の出席を得て、様々な角度から協議・検討している。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、地域の行事や外出などが制限されるなかでも、地域の婦人会から花の差し入れを受けたり、ドライブに出かけた際に車の中から花を見たりするなど、創意工夫しつつ取り組んでいる。家族等の要望に応じて、オンライン面会が行える環境も整備している。また、災害対策においては、地域の防災会議や防災研修に参加するなど、地域との協力体制を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングや申し送りで唱和し、理解して実践に取り組んでいる。	事業所では、“尊厳ある暮らしを支援します”という独自の理念を掲げている。事業所内に掲示するとともに、申し送りの際に唱和し、職員間での共有化を図っている。理念をもとに、具体的な年間目標を定め、達成状況を確認しつつ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事も中止になっている。	事業所では、地域の一員として自治会に加入し、利用者と一緒に行事に参加したり、近隣保育園の来訪を受け入れたりして、地域と交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、回覧をまわす際に、近隣住民と挨拶を交わすなど、関係性の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の人々にはできていないが、家族へ連絡した時に認知症の理解・支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の推進会議は文書にして報告している。お知らせなどを聞き、情報ももっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、民生委員や市の担当者、地域包括支援センター職員などの出席を得ている。感染症の流行にともない、書面を各委員へ送付し、意見等を得ている。出された意見について、職員間で話し合い、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	婦人会の方から頂いたお花がとてもきれいだだったので、利用者様と一緒に写真を撮った。	事業所では、事業所の現況や制度の変更点等について、市の担当者や広域連合等と相談している。運営法人が開催する会議等にも、市からの出席を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を実施し、具体的な内容について検討できる体制をとっている。	事業所では、毎月の職員部会や3か月に1回の身体拘束委員会のなかで、拘束の内容や弊害について、職員間での周知・徹底を図っている。職員は、日ごろの支援において、拘束にあたる行為を行っていないか、互いに確認しあうことで、安全・安心な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や部会、ミーティング時には、声かけや言葉遣い等について話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たりして掲載されている情報等をスタッフへ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容について、ゆっくり読んで理解して頂き、疑問がある時はその都度、尋ねてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱へ意見や苦情などを自由に入れてもらったり、職員が直接意見を聞いた場合には職員間で話し合い、まとめた意見を家族に伝えて運営に反映するようにしている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等の来訪時には、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においても、家族等の要望を受けて、オンラインの環境を整備するなど、出された意見等を運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は業務会議などで提案し、話し合ってもらっている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員から意見や提案等を聞き取っている。毎月、法人の業務会議の際に、職員から受けた意見等について話し合い、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回面接を行い、職員の個々の評価や意見、提案等の話しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・院外研修に参加し、実践交流会など内容を報告する場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為、他事業者との交流はできてはいないが、ケアの質の向上のためにDVDを見たりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れるのに時間がかかるため、利用者様とゆっくり話して不安な事などを聞いたりして、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会や連絡時に困っている事がないかを聞き、またケアプランの説明等にも意見や要望などを聞き、ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら支援を進められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で、信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取り、関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス流行の為、リモート面会で利用者様とゆっくり話して頂けるよう、家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモートの面会や電話などで話をしてもらうようにしている。	事業所では、利用者の友人や知人等が来訪した際、ゆっくり過ごすことができるよう配慮している。家族等の協力を得て、一時帰宅や馴染みの理・美容院等に出かけることもある。感染症の流行下においては、友人等と電話やはがきで連絡を取るなど、関係性が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が話しやすい環境を作り、お互いに声をかけたり励ましたりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話などして、家族との関わりを大切にしている。家族さんからも気軽に声をかけてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、スタッフとのコミュニケーションを通して、本人の意向や要望、不安などを聞くようにしている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、意向や希望等の把握に努めている。把握した意向等は、申し送りノートに記載し、職員間で共有化を図っている。意思の表出が困難な場合は、家族等から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から聞いた情報はスタッフと共有し、理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はできるだけリビングで過ごして頂き、レクリエーションや話をしたりして活動するように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に多業種のスタッフが参加し、変化があった場合はその都度報告している。	事業所では、利用者や家族等の希望を聞きとり、医師や歯科衛生士等の専門職からの意見を踏まえた介護計画書を作成している。定期的なモニタリングや心身状況の変化に応じた見直しにより、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はわかりやすく記録できるようにしている。申し送り時にケアの方法などの話をして見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、大きなディスプレイを使用してのリモートでの面会等、その方にあった面会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、商店街のイベントなどは中止になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や歯科からの診療が柔軟に出来る様な体制で、早期治療が受けられるようにしている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、職員が付きそうとともに、受診後は家族等と情報を共有している。定期的に、内科や歯科等の訪問診療があり、一人ひとりにあわせた適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換や処置の実施、継続がきちんと行えるようにスタッフへ伝達し、症状の早期治療を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他院への入退院時には情報提供を行い、家族と情報を取り合い、入院先で安心して治療ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書の内容を説明し、最期まで利用者様と家族様の意見を尊重するようにしている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の指針について利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、関係機関と共有し、チームで支援に取り組んでいる。年1回、看取りの研修も行き、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるよう、日頃より研修などを実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練の実施時に夜間の緊急連絡網の整備と避難場所、誘導方法などを確認している。	事業所では、年2回、避難訓練を実施している。地震や火災等を想定し、避難経路の確認や通報訓練を行っている。また、地域の防災会議や防災研修に参加するなど、地域との協力体制も築いている。食料以外に、発電機等も備蓄し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを傷つけないような声掛けやコミュニケーションができるように心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけなどを心掛けている。支援のなかで、ゆっくりと会話する時間を設けたり、レクリエーション等を選択できる機会を設けたりするなど、自己決定を大切に支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、気持ちや考えを理解して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に関わる時間を作り、希望に添えるように努力しているが、個々に聞けていないことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院の方に来てもらい、本人の好みにあった身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態も違い、介助を必要とされる方もいるので、個々に好みの物を提供することは難しい。	毎食、ご飯や味噌汁は事業所内で手作し、調理中の音や香りを感じることができるようにしている。月に数回、お弁当を注文したり、干し柿やホットケーキ等のおやつを作ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分がきちんと摂れるようお茶以外にも提供するようにしている。食べられない時は声掛けや介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底している。また定期的に歯科衛生士の指導や情報も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導し、トイレでの排泄を行っている。	事業所では、チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報にもとづいて、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間もトイレへの誘導を行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、自然排便を促すようにトイレに座ってもらっている。また水分も多めに摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。拒否がある場合は、足浴や更衣をしたり声掛けのタイミングを変えている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望に応じて、足浴や入浴時間の変更なども行っている。入浴拒否がある場合は、声かけのタイミングを変えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の寝具類の交換や環境を整え、安心して休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をしているが、スタッフ間でも投薬内容や副作用について理解し、服薬時に誤薬がないように最後まで見守りを行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の好きなことは継続してもらおう。作品作り等は皆さんと一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在は外出支援が出来ていない。	事業所では、近隣の公園へ散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。家族等の協力を得て、外泊や法事等に出かけることもある。感染症の流行下においては、敷地内の庭やベランダで外気を感じたり、ドライブに出かけた際に車の中から花を見たりするなど、創意工夫しつつ外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で金銭管理をしている。コロナ禍の為、買い物支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい場合には、職員が電話をかけたり、ご自分で携帯電話で話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や清掃は毎日実施している。また季節の花などを飾ったりして季節を感じてもらおうようにしている。	共用空間は、温度や湿度等に配慮しつつ、清潔感を保っている。壁面には、行事の写真や季節の花などを飾り、季節感を感じることができるようになっている。定期的に換気を行うなど、感染症対策にも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで自由にテレビを見たり話ができるようにして、ゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を置き、居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、利用者の使い慣れた家具やテレビなどを持ち込んでもらっている。写真や作品、カレンダーなど、好きなものを飾ってもらうことで、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間づくりを支援している。また、茶碗や湯飲みなども持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動ができ、共有スペースでも話をしたり、好きなことをして過ごせるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングや申し送りで唱和し、理解して実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事も中止になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の人々にはできていないが、家族へ連絡した時に認知症の理解・支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の推進会議は文書にして報告している。お知らせなどを聞き、情報ももらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	婦人会の方から頂いたお花がとてもきれいだったので、利用者様と一緒に写真を撮った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を実施し、具体的な内容について検討できる体制をとっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や部会、ミーティング時には、声かけや言葉遣い等について話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たりして掲載されている情報等をスタッフへ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容について、ゆっくり読んで理解して頂き、疑問がある時はその都度、尋ねてもらっているようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱へ意見や苦情などを自由に入れてもらったり、職員が直接意見を聞いた場合には職員間で話し合い、まとめた意見を家族に伝えて運営に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は業務会議などで提案し、話し合ってもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回面接を行い、職員の個々の評価や意見、提案等の話しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・院外研修に参加し、実践交流会など内容を報告する場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為、他事業者との交流はできてはいないが、ケアの質の向上のためにDVDを見たりしている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れるのに時間がかかるため、利用者様とゆっくり話をして不安な事などを聞いたりして、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会や連絡時に困っている事がないかを聞き、またケアプランの説明等にも意見や要望などを聞き、ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら支援を進められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で、信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取り関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス流行の為、リモート面会で利用者様とゆっくり話して頂けるよう、家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモートの面会や電話などで話をしてもらうようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が話しやすい環境を作り、お互いに声をかけたり励ましたりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話などして、家族との関わりを大切にしている。家族さんからも気軽に声をかけてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、スタッフとのコミュニケーションを通して、本人の意向や要望、不安などを聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から聞いた情報はスタッフと共有し理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はできるだけリビングで過ごして頂き、レクリエーションや話をしたりして活動するように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に多業種のスタッフが参加し、変化があった場合はその都度報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はわかりやすく記録できるようにしている。申し送り時にケアの方法などの話をして見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、大きなディスプレイを使用してのリモートでの面会等、その方にあった面会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、商店街のイベントなどは中止になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や歯科からの診療が柔軟に出来る様な体制で、早期治療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換や処置の実施、継続がきちんと行えるようにスタッフへ伝達し、症状の早期治療を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他院への入退院時には情報提供を行い、家族とも情報を取り合い、入院先で安心して治療ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書の内容を説明し、最期まで利用者様と家族様の意見を尊重するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように日頃より研修などを実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練の実施時に夜間の緊急連絡網の整備と避難場所、誘導方法などを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを傷つけないような声掛けやコミュニケーションができるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、気持ちや考えを理解して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に関わる時間を作り、希望に添えるように努力しているが、個々に聞けていない事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院の方に来てもらい、本人の好みにあった身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態も違い、介助を必要とされる方もいるので、個々に好みの物を提供することは難しいが、食器を食べやすい物に変更したりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分がきちんと摂れるようお茶以外にも提供するようにしている。食べられない時は声掛けや介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底している。また定期的に歯科衛生士の指導や情報も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導し、トイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、自然排便を促すようにトイレに座ってもらっている。また水分も多めに摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を実施している。拒否がある場合は、足浴や更衣をしたり声掛けのタイミングを変えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の寝具類の交換や環境を整え、安心して休めるようにしている。現在は面会等が出来ないため、必要になった物に関しては御家族へ連絡し、スタッフが管理している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をしているが、スタッフ間でも投薬内容や副作用について理解し、服薬時に誤薬がないように最後まで見守りを行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の好きなことは継続してしてもらう。作品作り等は皆さんと一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在は外出支援が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で金銭管理をしている。コロナ禍の為、買い物支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい場合には、職員が電話をかけたり、ご自分で携帯電話で話ができるようにしている。又、リモートで面会したり、LINE等で連絡したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や清掃は毎日実施している。また季節の花などを飾ったりして季節を感じてもらおうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで自由にテレビを見たり話ができるようにして、ゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を置き、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動ができ、共有スペースでも話をしたり、好きなことをして過ごせるようにしている。		